

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	川崎西部地域療育センター児童発達支援センター（福祉型・医療型）		
○保護者評価実施期間	令和6年11月13日	～	令和6年11月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	118名	(回答者数) 63
○従業者評価実施期間	令和6年11月11日	～	令和6年11月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 21
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	関係機関と連携したきめ細かい支援 ・就学先の学校との引継ぎや在園する幼稚園・保育園とフレキシブルな情報交換など、きめ細やかな連携ができている ・小学校教員向け「公開療育講座」や幼稚園・保育園・児童発達支援事業所向けの「地域講座」で技術支援を通じた相互理解の推進を図っている	療育センターで取り組んだことが地域での活動、学校・幼稚園・保育園での生活に活かされることが大切という視点で、引継ぎを丁寧に行っている。 実際の療育場面を見学することで、支援内容をより理解しやすく、具体的な関わり方を共有するきっかけになることから見学・講座を療育センターで開催している。	これまで通り関係機関からの見学・研修の受け入れを積極的に行うとともに、療育センター職員が幼稚園・保育園・学校・児童発達支援事業所に訪問しやすい職員体制、年間プログラムの工夫をさらに行っていく。
2	保護者支援プログラムの充実 ・療育センター利用者全体向けの学習会の他に、通園施設利用保護者対象に年齢別・クラス別の保護者勉強会が年間で計画している ・「先輩保護者」からの子育て体験談を語っていただく「経験交流会」も企画し、多くの参加者を得ている	療育センターに相談後に始まる初期療育グループ（児童発達支援事業所）から通園（児童発達支援センター）の流れ、支援プログラム内容を分析し、より効果的な学習会等が展開されるように計画して実施している。	保護者の満足度アンケート等から療育効果を分析し、より効果的なプログラムになるような必要な見直しを行いながら計画を立てていく。 「先輩保護者からの体験談」シリーズを継続実施し、より多くの方が参加できる方法を検討する。
3	ご家族が相談しやすい環境作り ・日頃から職員とご家族でコミュニケーションが活発に行なわれ、相談しやすい雰囲気支援活動が行われている。 ・ご家族からの相談に、迅速に適切なアドバイスを行うように努めている	相談に対してタイムリーにお返事ができるように電話での相談対応も積極的に行っている。 相談内容によって、担任だけではなく、様々な職種のスタッフと連携し、協議するなどチームで相談対応するようにしている。	一人ひとりの職員が相談支援力を高めていく所内研修、OJTなどを充実させていく。 家庭での困りごと、地域の集団生活での支援方法などに適切な具体的がアドバイスができる職員を育成していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設環境に合わせた効果的な支援プログラム作り ・クラスの教室が親子参加プログラムの際には、狭さを感じるスペースになっている ・使用できる部屋に限りがある中で、様々なタイプのお子さんへの対応が柔軟にできにくい時間帯も生じている	教室そのものが狭い構造になっているために親子で同時に参加する状況では、大人、子どもが密集してしまう状況が生じる。 様々なクラスを同時運営する中で、事前に調整して計画的に各部屋を使用する良さと、柔軟性を持たせて臨機応変に使用していく良さを両立させていくことが難しい状況がある。	狭さを利点として運営できる構造、活動をさらに工夫していく（狭さ、短い距離だからできる適切な行動経験、集中しやすい構造など） 安全な環境設定を基本としながら、時間、活動部屋を柔軟に使用して子どもの状況に応じた空間を確保していくようにする。
2	活動バリエーションの充実と自由遊び時間の充実 ・家族から活動内容が固定化している、自由時間が長く感じることがあるとの意見をいただくことがある	給食の配膳への対応で、職員が手薄になる場面もあり、安全把握を優先したプログラムにならざる終えないことがある。 活動、遊びについて、手持ちのバリエーションを増やしていく必要がある。 また、自由遊びの意味、一定程度固定化することでのメリットについてご家族の十分な説明ができていない面もある。	1日全体のプログラムの組み方について、さらに検討をすすめる、自由遊び、集団での設定活動、個別活動のバランスを図っていく。 ご家族へプログラムの意味について、丁寧に説明を行っていく。
3	地域に開かれた施設運営 ・運営協議会に地元自治会の代表の方に参加していただき、施設運営にご意見をいただくことはあるが、日常的な交流の機会はあまりない状況になっている ・避難訓練を地域の方々と共同で実施する計画をしているが、実施には至っていない	施設の近隣住民の皆様が、療育センターの存在、活動内容があまり知られていない状況もある。 療育センターの活動について、積極的に情報発信する機会が少なく、行事などを共同で検討するに至っていない	近隣の方に避難訓練に参加していただいたり、療育セターの日常的な活動の中に、参加しやすい形で交流していく機会を作ることを検討する